

知って納得

ふむふむ コープ

食の安全レポート vol.2

ちょっと気になる、いろいろ気になる!?

食品添加物のおはなし



コープきんぎ
品質保証部

1 コープにはたくさん商品があって便利だけど、添加物とか大丈夫なのかなあ?

よくわからないよねえ。

では私がお話しましょう!

だ、だれ!?

コープのお兄さんよね

2 「添加物」=「危ない」ではないのです

よく、「天然のものは安全で、人工的なものは危ない」というイメージを持たれがちですが、こちらをご覧ください。

あなたは誰?

どうもー

これは「ビタミンC」
L-アスコルビン酸です。
野菜や果物に含まれています。
また、化学的に合成して食品添加物としても使われています。

この天然由来のビタミンCと、人工的に合成したビタミンC、実はどちらも同じ性質を持ちます。
イメージではなく、ひとつひとつの添加物を科学的にきっちり評価することが大切なのです。

3 科学的な評価には、最新の知見が大切

例えば、以前は発がん性が疑われた添加物も、最新の知見で発がん物質ではないことがわかることもあります。

たとえば甘味料の「サッカリン」

サッカリンが怪しい!? 発がんのメカニズムが研究され...

1974年
サッカリンを摂ったオスネズミが膀胱がん? という報告がありました。

1999年
国際がん研究機構で膀胱がんの原因は他にあり、「サッカリンは発がん物質ではない」ことが確認されたのです。

サッカリン 無罪!

発がん物質ではなかった

食品のリスクを評価する科学は進歩しています。科学の進歩で評価が変わることもあるのです。

4 このような科学的な評価の情報はとても大切。しかし、以前は行政から情報開示が十分にされていませんでした。

「安心して食べられる商品がほしい」という願いからスタートしたコープは

1999年
このような状況に対して「食品衛生法改正」の署名運動をすすめました。

2003年
運動の結果、厚生労働省や農林水産省からは独立した「食品安全委員会」で科学的・客観的な評価がなされ、情報公開される「食品安全基本法」制定につながりました。

食品添加物に関する日本の「食品安全行政」を前進させる大きな力となったのです!

へえ、そんな運動してたんだ

5 7つの生協でつくるコープきんぎの

食品添加物の考え方

現在、国でリスク評価・認可された食品添加物については、基本的な安全性は動物実験など科学的な検証に基づき確保されています。一方で、一部には安全性に関するデータが十分でないものがあり、必要に応じてコープが自主基準を設定しています。

次回10月4回のふむふむコープで「コープラボ」をご紹介します!

商品検査センター「コープラボ」で法律にのっとって正しく食品添加物が使われているか確認します。

法律や生協の基準を満たしているか「商品仕様書」を点検します。

ふ〜ん、コープ独自でやっていることもあるんだね

6 大切なのは科学的な評価です!

今はいろいろな情報が飛びかっけていて、「〇〇は危険!」といった極端に断定的な言い方をされるものも少なくありません。まずは正しい情報かどうか確かめたいですね。

「添加物」=「危ない」、じゃないんだね。まず「きちんと知る」ことから始めよう!

そうか〜